八重瀬町社協　第3号

令和３年３月31日

ふくし日和（びより）

～社会的孤立対策モデル事業～

地域の「福祉力」向上を目指して・・・

社会福祉法人
八重瀬町社会福祉協議会

八重瀬町字東風平 1318-1
電　話：998-4000
ﾌｧｯｸｽ：998-8999
社協ＨＰ
http://yaeseshakyo.com/

八重瀬町社会福祉協議会は平成３０年度から３年間、沖縄県社会福祉協議会より**「社会的孤立対策モデル事業」**を受託して令和２年度で最終年度を迎えました。

モデル事業は、区長・自治会長、民生委員・児童委員、地域住民、ボランティア、社会福祉施設、ＮＰＯ団体、市町村行政等の関係機関との連携のもと、地域の人々が明るいネットワークを築き支え合う社会を目指し、社会的孤立・社会的排除の解消と防止を図ることを目的とします。

「社会的孤立」とは・・・

周りに助けを求める相手がいない。
またはその人の周りにその人を気に掛ける人が誰もいない状態。
※THANKS（サンクス）運動パンフレットより

モデル指定を受けた本会が取り組む事業は、以下の通りです。

（１）コミュニティソーシャルワーカー（ＣＳＷ）の配置
（２）地域における孤立解消に向けた取り組み
（３）地域支え合いづくり支援協議会の設置　（４）社会福祉施設との協働
（５）広報活動の実施　（６）地域の特性にあわせた事業
※CSWとは、地域における見守り・発見・サービスへのつなぎの役割を担う福祉専門職です。

私たちがCSWです！

左から：具志頭中学校区担当・・・・・・・・・・・・・・仲村
東風平中学校区（モデル事業）担当・・新垣
東風平中学校区（モデル事業）担当・・赤嶺
東風平中学校区担当・・・・・・・・・・・・・・永山

※令和2年度よりCSWの配置は小学校区圏域から中学校区圏域へ変更になりました。

この「八重瀬町社協ふくし日和」は沖縄県社会福祉協議会 社会福祉振興基金助成事業の助成金で作成しています。

令和2年度 支え合い委員会連絡会の開催

令和2年7月22日(水)に町社会福祉会館で令和2年度「支え合い委員会連絡会」を開催しました。本事業は住民一人一人が地域の中で生き生きと安心して暮らしていくために地域住民自ら身近な生活課題に取り組み、お互いに支え合う地域共生社会の実現を目指し実施しています。

本連絡会は全行政区(34地区)の支え合い委員を対象に開催しました。支え合い委員の委嘱状を交付した後、社協職員であるコミュニティソーシャルワーカー(CSW:地域の相談員)の紹介や各地域の現況等を報告しました。また、社会的孤立対策モデル事業の事業説明や、第1期・第2期モデル地区の令和元年度の活動紹介や今後の活動方針について説明を行いました。

支え合い委員委嘱状交付 (午前)
県営外間団地自治会支え合い委員会 代表 玉城 氏

支え合い委員委嘱状交付 (午後)
友寄東ハイツ自治会支え合い委員会 代表 上原 氏

また、第3期モデル地区の募集案内も行いました。モデル地区になった地域では、公民館や集会所を活用して地域窓口相談の開設や地域の特性に応じた事業展開、各種研修会へ参加していただき、社会的孤立を作らない、地域の活性化につながる活動をしていきます。今年度は、新型コロナウィルス感染症の影響により字・自治会や支え合い委員会を中心とした活動に制限がありますが、感染症予防対策をしっかりと行いながら、地域窓口相談や支え合い委員会を開催していきます。

【事務局より】

昨今の福祉課題は複雑多様化しており、福祉制度やサービスでは支援できないケースが増えています。国や県においては、地域共生社会の実現に向けて制度等に該当しない方々は、地域の福祉力を高め、地域で支援していく体制をととのえるため、本町においても行政区で支え合い委員会の設置を推進しています。

この「八重瀬町社協ふくし日和」は沖縄県社会福祉協議会 社会福祉振興基金助成事業の助成金で作成しています。

第1期・第2期モデル地区支え合い委員会活動中!

本会では、7月にモデル地区(11字・自治会)毎に各公民館や集会所にて「モデル地区支え合い委員会連絡会」を開催しました。7月2日(木)の屋宜原団地自治会支え合い委員会をスタートに7月26日(日)安里区支え合い委員会で11字・自治会の連絡会を終えることができました。

富盛区支え合い委員会

友寄第一団地自治会支え合い委員会

具志頭区支え合い委員会

新城区支え合い委員会

後原区支え合い委員会

安里区支え合い委員会

世名城区支え合い委員会

玻名城区支え合い委員会

宜次区支え合い委員会

県営長毛団地自治会支え合い委員会

屋宜原団地自治会支え合い委員会

この「八重瀬町社協ふくし日和」は沖縄県社会福祉協議会 社会福祉振興基金助成事業の助成金で作成しています。

相談者の思いを知り信頼関係構築を

モデル認証書交付式・相談員研修会開催

本会では、令和2年9月25日(金)に令和2年度「支え合い委員会モデル認証書交付式並びに地域窓口相談員研修会」を開催しました。

八重瀬町社協社会的孤立対策モデル事業も今年度で最終年度になり、モデル地区も第1期モデル地区8字・自治会、第2期モデル地区6字・自治会に加え、新たに第3期モデル地区に東風平・当銘・白川ハイツ・大頓の4字・自治会が加わりました。

本研修会はモデル地区支え合い委員・地域窓口相談員、社協職員を対象に実施しました。講師は前年度に引き続き沖縄県社会福祉士会顧問の竹藤登氏をお招きし、「相談におけるコミュニケーション技術」をテーマに講話をしていただきました。相談において相談者の思い(価値観)を知ることで信頼関係の構築につながることなど相談に対する心構えをご教授いただきました。

地域窓口相談員は地域の些細な困りごとは地域で解決していこうという趣旨のもと、各モデル地区で2名の地域窓口相談員を配置し月1～2回程度、公民館や集会所で相談窓口を開設いたします。子どもからお年寄りまで地域の困り事なら地域窓口相談員までご相談ください。必要に応じ専門機関との連携も行います。

モデル地区認証書交付　大頓区　屋宜 氏

第３期モデル地区　地域窓口相談員

〈参加者の声〉

・相談者の思いを知ることによってコミュニケーションを進めていくことが大事だと理解できた。

・相談援助の基礎でコミュニケーション技術を学ぶことで相談員としてスムーズに対応ができると思いました。

・相談におけるコミュニケーションとは対象者を理解すること、相手の環境を理解すること、思いを理解すること等、窓口相談があったときに役立てたいと思います。

モデル事業を通して、地域福祉課題の解決に向けて、本会と地域住民が協働して対応できる仕組みづくりの構築を目指していきたいと思います。

この「八重瀬町社協ふくし日和」は沖縄県社会福祉協議会 社会福祉振興基金助成事業の助成金で作成しています。

第3期モデル地区 令和2年10月より活動開始

第3期モデル地区の4字・自治会において、公民館や集会所を活用した「地域相談窓口」が設置されました。相談窓口では、各地区から推薦された住民の方を「地域窓口相談員」として配置しています。地域の些細な困り事は地域で解決していこうという趣旨のもと、月1回から多い地区で月4回程度、窓口を開設しています。子どもからお年寄りまで年齢は問わず相談受付し、必要に応じ専門機関との連携も行います。※第1期モデル地区・第2期モデル地区も継続して実施しています。

東風平区支え合い委員会

当銘区支え合い委員会

大頓区支え合い委員会

白川ハイツ自治会
支え合い委員会

第3期モデル地区 地域窓口相談日一覧

- 東　風　平：毎月第2木曜日　14:00～16:00（場所：東風平公民館）
- 当　　銘：毎月10日　13:00～15:00（場所：当銘公民館）
- 白川ハイツ：毎月第2・4月曜日　11:30～12:15（場所：白川ハイツ自治会館）
- 大　　頓：毎週水曜日　10:00～11:00（場所：大頓公民館）

八重瀬町社会福祉協議会 社会的孤対策モデル事業 取り組みイメージ図

【事務局より】

支え合い委員会の役割は制度や福祉サービスで支援できない区民のために社協の担当職員と情報共有を図り、ケースによっては支援会議を開催し地域でどのような解決方法があるか話し合います。また、社協には、字・自治会で活用できる助成金（社協会費・赤い羽根共同募金が財源）があり、その助成金の使途計画についての協議等も行います。

この「八重瀬町社協ふくし日和」は沖縄県社会福祉協議会 社会福祉振興基金助成事業の助成金で作成しています。

支え合い委員会の取り組み紹介

当銘 元気よく登校

令和3年1月より、当銘公民館前にて、支え合い委員会メンバーを中心にあいさつ運動を実施。毎朝、登校する児童の見守りを行っています。実施するきっかけとなったのは、支え合い委員1人からの提案でした。県道134号線の交通量が多いことと公民館前の町道にバスが入ってくるため死角が多く、子どもたちの飛び出し等があると危険。以前から子どもたちの見守りの必要性を感じていました。支え合い委員会で話をしてみると委員の皆さんにも賛同してもらうことができました。始めて3カ月ほどになりますが最近は子どもたちの方から元気よく挨拶をしてくれるようになりました。今後も活動を継続し、字の広報紙を通して地域の方々にも参加の呼びかけを行っていきます。

東風平 温かいお弁当を地域へ

支え合い委員会メンバーを中心に東風平公民館にて弁当を作り高齢者世帯へ配食(無料)を実施しています。平成30年度より「東風平ゆんたく会」を開催していましたが、今年度はコロナウィルスの影響を受け、ゆんたく会の開催が難しくなってしまったこともあり配食へ変更しました。現在は気になる世帯を中心に週1回お昼に配食を行っています。食材は地域住民や社協(寄贈品等)からの提供等がありその中の食材からメニューを決めて作っています。

富盛 友寄第一団地 大頓

感染防止対策でつながる見守り

今年度は新型コロナウィルス感染症防止の観点から外出頻度が減っている中、富盛、友寄第一団地、大頓の3地区では見守りをしながら新型コロナウイルス感染症対策で地域の高齢者宅へ消毒用アルコールや除菌シートなどを配布しました。その際に近況や健康状況等の聞き取りなどを行い、高齢者の孤立防止、不安解消などを図りました。富盛は20件、友寄第一団地で27件、大頓で25件の訪問をしました。

宜次 友寄第一団地 具志頭

申請できずに困っている方の助けに

令和2年4月にあった緊急事態宣言を受け、国から新型コロナウィルス感染症対策として支給された特別定額給付金の申請支援を宜次、友寄第一団地、具志頭の3地区の支え合い委員会で実施。「申請したくてもできない人がいるのではないか?」ということで、各地域の支え合い委員で声掛けを行い、必要な方は公民館等で一緒に申請書の記入や書類のコピーなど申請支援を行いました。宜次約30件、友寄第一団地12件、具志頭(訪問)約10件。

この「八重瀬町社協ふくし日和」は沖縄県社会福祉協議会 社会福祉振興基金助成事業の助成金で作成しています。

見守り隊と連携 地域の輪

令和2年11月19日(木)に「八重瀬町地域見守り隊に関する協定書締結式」を開催し、新たに5事業所と協定書の締結を行いました。この締結で地域見守り隊は全14事業所となりました。

同締結式は地域で見守りが必要な方の見守りを地域住民、民間事業所、福祉専門機関等、八重瀬町の様々な団体が相互連携を行い、ネットワークの構築を展開することにより、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを推進することを目的に実施しました。

新たに見守り隊を締結した事業所
①沖縄協同ガス株式会社　②沖縄県農業協同組合 南部西LPガスセンター　③東風平郵便局
④具志頭郵便局　⑤南風原中郵便局（順不同）

協力事業所証明書 進呈
沖縄協同ガス株式会社 社長　津波 氏

沖縄協同ガス株式会社 社長 津波勇徹氏は「毎月の検針員については、集金、容器配送さらには緊急時に備えた24時間体制で行っている集中監視センター等、さまざまな業務を通じて些細なこと、ちょっとした気づきを地域見守り隊として連携・協力をしていきたい」と挨拶がありました。

締結終了後、これまで地域見守り隊を締結した事業所も合同で「地域見守り隊事業所連絡会」を開催しました。連絡会では本会や町地域包括支援センターの取り組みについての説明やこれまで地域見守り隊がきっかけで支援に繋がった事例報告を行いました。

新たに見守り協定書を締結した5事業所

地域見守り隊事業所連絡会の様子

〈参加者の声〉
・多機関の連携によって地域住民の暮らしを支えている様子が良く伝わりました。特に事例は具体的でとても分かりやすかったです。
・色々な事例が見られて良かったです。もし同じような事例に遭遇したら慌てずに対応していきたいです。
・地域住民とどのように関わっているかなどを知り繋がりは大事だと感じることができました。

地域見守り隊事業所一覧
・沖縄タイムス社 ・琉球新報社 ・沖縄ヤクルト株式会社 ・生活協同組合コープおきなわ ・南部水道企業団
・社会福祉法人転生会特別養護老人ホーム転生園 ・社会福祉法人憲寿会特別養護老人ホームときわ苑
・特定非営利活動法人サザンウィンド ・社会福祉法人志紋福祉会障害者支援施設みなみの里（順不同）

この「八重瀬町社協ふくし日和」は沖縄県社会福祉協議会 社会福祉振興基金助成事業の助成金で作成しています。

地域力向上研修会

令和3年3月5日(金)に中央公民館にて、令和2年度「社会的孤立対策モデル事業地域力向上研修会」を開催しました。本研修会では、支え合い体制や地域づくりを更に充実・発展させることと東日本大震災から10年を迎える中で改めて互助・共助の重要性を考え、防災からの地域づくりとして、災害時におけるニーズ把握や安否確認体制・支援体制の構築を図り、誰もが安心して暮らしていける地域共生社会の実現を目指すことを目的に実施しました。

新型コロナウィルス感染症対策ということもあり、午前の部と午後の部の2部構成にし参加者の人数制限を設け開催しました。午前の部はモデル地区外16字・自治会の支え合い委員を対象に一般社団法人 災害プラットフォームおきなわ 共同代表理事である稲垣暁氏を講師にお招きし、「足元から考える 地域づくりにつながる防災実践」と題してご講話を頂きました。稲垣氏は「本島は東西に無数の断層が横切っており、地上では起きていないが、沖縄県近海では多くの地震が起きている。また、南部には「南部断層系」という震度7クラスの地震が起きる可能性のある活断層があり、いつ大地震が起きてもおかしくない。」と話されました。その他にも、すぐにできる防災対策として、普段から地域での繋がりを持っておくことや家具の固定、備えもの(食糧や衛生管理用品等)などの必要性を説いていました。29名の参加があり、参加者からは「身近に地震は来ないだろうと甘く見ていたがそうではないことを確認できたことは良かった。改めて防災の必要性を強く感じました。」などの意見がありました。

稲垣 暁 氏

午後の部はモデル地区18字・自治会の支え合い委員を対象に特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく 副代表理事・事務局長である宮道喜一氏を講師にお招きし、「災害時の要援護者支援と津波避難を考える」と題してご講話を頂きました。また、災害に強い町づくりと福祉マップとしてワークショップを行い、津波を想定した災害時に活用できる福祉マップの作成方法や避難する際のルート確認、要援護者をどのように避難誘導させるのか等グループのメンバー同士で検討してもらい、災害時に要援護者と一緒にスムーズに避難をするためには日ごろからの関わりが大切であるということを学ぶことができました。45名の参加があり、参加者からは「災害時の研修でありましたが、再度考える時間となりました。また、周りの近所には、自分をまもりながら、どんな手助けができるか考えていきたいです。」などの意見がありました。

宮道 喜一 氏

午前の部、午後の部で学んだことを各地域に持ち帰り、支え合い委員会を中心に地域づくりを展開することを目指し、また、全地域で、オリジナルの福祉マップを作成し活用できればと思っています。参加していただきました支え合い委員の皆さんありがとうございました。

今後も地域福祉活動にご協力をお願いします。

この「八重瀬町社協ふくし日和」は沖縄県社会福祉協議会 社会福祉振興基金助成事業の助成金で作成しています。